

■11月29日

#### 国交省、エチオピアとの航空当局間協議

国交省は28日、日本とエチオピアの航空当局間協議が12月2日から4日にかけて東京で開催すると発表した。今回は、成田空港路線の乗り入れなどをはじめ、路線や輸送力などについて協議するものと見られる。両国間の航空協定は1997年に更新されているが、現在までにエチオピアは成田空港への発着権益を得ていない。今年5月に両国の首脳会談が行われ、航空関係を強化していくことを確認していた。

また、エチオピア航空は、かつて1990年代に成田路線就航の意向を持っていたが、当時は成田空港の発着容量が一杯で実現せず、いわゆるウェイティング国の1つだった。

国土交通省航空局航空交渉室は、現時点で路線開設の予定や意向が示されているわけではないものの、エチオピア航空がボーイングB787型機を購入しアジア路線の拡充に積極的に勧めていることなどから、「可能性としてはあるかもしれない」という。

(トラベルビジョン)11/28

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59742> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59742>)

(日刊航空)11/29

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(国交省プレスリリース)11/28

[http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03\\_hh\\_000222.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03_hh_000222.html) (->

[http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03\\_hh\\_000222.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03_hh_000222.html))

日航、成田—ニューヨーク線、ダブルデイリー、来年3月30日から

日航は28日、現在1日1往復している成田—ニューヨーク線を、2014年3月30日から1往復増便し、2往復に増やすと発表した。使用機材はボーイング787、いずれもアメリカン航空との共同運航を行う。増便されるフライトは、成田発19:45 - ニューヨーク着 20:00、ニューヨーク発9:30 - 成田着12:40。成田空港に夕方到着する東南アジアや中国からの乗り継ぎ需要の獲得を図るほか、ニューヨークから成田到着後同日中にアジア各地域へ向かう需要を取り込みたい考えだ。また、南米路線との乗り継ぎ時間の短縮も図っており、利便性を高め、需要の掘り起こしを図る。

日刊航空によると、同社は、夏季スケジュールからの羽田空港国際線増便で想定よりも少ない配分となった。このため、羽田増便での均等配分を想定して準備していた機材など生産資源に余剰が生じる。一時的に余剰となる機材は3機分程度と見られる。こうしたリソースの一部を充てて、成田—ニューヨーク線を増便することを決めた。新規路線開設ではないため、国土交通省も関与しない。また、同じワンワールドで提携するアメリカン航空が12月から羽田—ニューヨーク線を廃止することも、同路線増便決定の要因となった。

(JALプレスリリース)11/28

<http://jp.wsi.com/article/JJ11731989941859724320018292028102534500923.html> (->

<http://jp.wsi.com/article/JJ11731989941859724320018292028102534500923.html>)

(日刊航空)11/29

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

日航、ボーイング787、12月以降バンコク線へ投入

日航はこのほど、GE社製エンジン搭載の787型機の飛行規程(AFM)改定に伴う一部国際路線での機材変更について、12月以降の計画を決めた。AFM改定で積乱雲を通常より大きく避けて飛行を行う必要になったことから、11月25日以降は787型機で運航していたデリー線やシンガポール線、投入予定だったシドニー線は、12月以降も別の機材での運航を継続する。

一方で現在777型機で1日2便運航する成田—バンコク線、777型機による同1便の羽田—バンコク線を12月からは全便787型機に代えて運航する。さらに、12月1日～1月10日まで成田—バンコク線で1日1便の臨時便を設定、これ

も787型機で運航する。

(日刊航空)11/29

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

スターフライヤー、「読売新聞ニュース」を機内電子書籍で提供、日本初

スターフライヤーは28日、11月21日に受領した12号機(JA22MC)で、日本の航空会社で初めて、電子書籍機能によるニュースの提供を12月16日から開始すると発表した。全席に備え付けられたタッチパネル式液晶モニターで最新の「読売新聞ニュース」を提供する。

(スターフライヤープレスリリース)11/28

<http://contents.xi-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120131128065723.pdf> (-> <http://contents.xi-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120131128065723.pdf>)

北九州市長、スターフライヤーに対し補助金返還を求める意向

(毎日新聞によると)

来年3月に北九州-韓国・釜山線の休止を決めたスターフライヤーに対し、北九州市の北橋健治市長は27日の記者会見で、同線支援のために支出した補助金について返還を求める考えを明らかにした。今後は県や苅田町と協議し、来年1月に結論を出す方針。

市によると、県や市などでつくる「北九州空港利用促進協議会」が就航補助金を、市と苅田町などで構成する「北九州空港利用促進連絡会」が北九州空港ターミナルビルの借地代をスターフライヤーに補助している。いずれも補助金交付要綱で最低3年間の運航継続を規定しており、昨年7月に就航した同線の運休は交付金の取り消しに当たるといふ。協議会は今年6月までに7650万円、連絡会は今年3月までに980万円をそれぞれ補助。合計8630万円のうち、市は半額を負担しており、北橋市長は「原則、返還を求める」と述べた。市空港企画室によると、市単独ではなく、協議会、連絡会を通して求めるという。

業績が悪化している同社は15日の記者会見で赤字路線の同線を休航する決定を明らかにしていた。

(毎日新聞)11/28

<http://mainichi.jp/area/fukuoka/news/20131128ddl40020435000c.html> (-> <http://mainichi.jp/area/fukuoka/news/20131128ddl40020435000c.html>)

シンガポール航空、羽田昼間時間帯、シンガポール線増便、羽田3便・成田2便へ

シンガポール航空は28日、2014年3月30日から羽田空港での昼間時間帯の発着枠を利用してシンガポール線を増便し、現在の深夜早朝枠で1日2便に加え、1日3便運航する。また、成田線の1日2便も運航を継続し、東京-シンガポール間の運航便数を1日5便とする。

昼間時間帯の使用機材はエアバスA330-300型機。増便により、1週間あたりの座席数は約2000席増加することとなる。また、増便にあたり、既存の深夜早朝枠の便も昼間時間帯の枠と組み合わせることで利便性を向上させる。

(トラベルビジョン)11/28

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59751> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59751>)

ソラシド、9月中間決算、増収減益

スカイネットアジア航空(ソラシドエア)は28日、2013年9月中間決算を発表した。全路線の提供座席数1,185,594席(前年同期比17.9%増)を上回って有償旅客数が805,893人(同22.2%増)と伸びたことから、搭乗率は68.0%(前年同期65.6%)へ向上した。6月1日より新規就航した神戸-沖縄線は48.8%と低調だった。なお就航率は、99.4%(前年同期98.5%)、定時出発率は、羽田、那覇両空港混雑の影響もあり90.3%(同93.7%)と前年同期を下回った。

営業収入は前年同期比16.7%増の177億2千万円で11期連続の増収だったが、機材の入れ替えに伴い前倒しでリース解約したため、特別損失を5億6千万円計上し、中間純利益は前年同期比16.4%減の7億400万円で2期ぶりの減益だった。

なお、ユニットコスト(営業費用/提供座席キロメートル)は、旧型機材の退役と新型機材の導入や各種コスト削減努力の効果等を反映し、前事業年度の8.95円から低下し8.66円。

(沖縄タイムス)11/28

<http://www.okinawatimes.co.jp/article.php?id=57831> (-> <http://www.okinawatimes.co.jp/article.php?id=57831>)

(ソラシド プレスリリース)11/28

<http://www.skynetasia.co.jp/corporate/pdf/press131128.pdf> (->

<http://www.skynetasia.co.jp/corporate/pdf/press131128.pdf>)

\*出典:ソラシド プレスリリース

1. 運航実績および搭乗実績 ※コードシェア販売分を除く

		当中間会計期間	前中間会計期間	前年同期
運航実績	定期運航予定便数	11,076 便	9,882 便	19,712 便
	定期運航便数	11,015 便	9,738 便	19,504 便
	欠航便数	61 便	144 便	208 便
	就航率	99.4%	98.5%	98.9%
	定時出発率	90.3%	93.7%	93.3%
搭乗実績	提供座席数 (前年同期比)	1,185,594 席 (117.9%)	1,005,434 席 (112.6%)	2,022,754 席 (108.5%)
	有償旅客数 (前年同期比)	805,893 人 (122.2%)	659,251 人 (120.4%)	1,345,873 人 (116.0%)
	L/F (前年同期 L/F)	68.0% (65.6%)	65.6% (61.3%)	66.5% (62.2%)

2. 路線別搭乗率 (平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日) ※コードシェア販売分を除く

路線		L/F(前年同期値)	提供座席数 前年同期比	有償旅客数 前年同期比
東京線	一宮崎	69.1%(66.1%)	103.1%	107.8%
	一熊本	73.2%(65.7%)	120.4%	134.2%
	一長崎	70.1%(61.8%)	104.6%	118.6%
	一鹿児島	70.3%(69.3%)	136.1%	138.0%
	一大分	58.9%(66.5%)	144.2%	127.6%
	小計	68.8%(65.8%)	117.4%	122.7%
沖縄線	一宮崎	60.7%(74.9%)	156.6%	127.0%
	一鹿児島	61.8%(66.2%)	143.9%	134.4%
	一神戸	48.8%(-)	-	-
	小計	56.5%(61.6%)	126.0%	115.5%
全路線合計		68.0%(65.6%)	117.9%	122.2%

成田空港、イスラム教旅客への受け入れ充実、ハラール食ケータリングサービスも開始

成田国際空港会社(NAA)は28日、イスラム教徒の旅客に配慮し、礼拝室を充実させるなどの取り組みを2014年夏まで段階的に着手すると発表した。イスラム教徒が多い東南アジアからの訪日旅客が急増するなか、政府が掲げる「観光立国」実現に向け、イスラム圏旅客の呼び込みに力を入れる。

ターミナルに計2カ所ある礼拝室を4カ所に増やし、うち3カ所には体を清めるための水場を新たに設置。12月6日からは、イスラム教の戒律に従って処理、加工した「ハラール食品」を待合室に運んでくれるケータリングサービスを始める。また、2014年夏には「ハラール認証レストラン」を導入することも発表した。

(産経ニュース)11/28

<http://sankei.jp.msn.com/life/news/131128/trd13112819370012-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/life/news/131128/trd13112819370012-n1.htm>)

(NAAプレスリリース)11/28

<http://www.naa.jp/jp/press/pdf/20131128-muslim.pdf> (-> <http://www.naa.jp/jp/press/pdf/20131128-muslim.pdf>)

アジアナ航空、米子—ソウル線、搭乗率5割に届かず、特別ツアーも造成

アジアナ航空が運航する、米子—ソウル便は日韓関係の冷え込みなどの影響で、10月の搭乗率は3割台に低迷。11月は27日現在で49.3%と盛り返すが目標の5割に届いていないことが分かった。

鳥取県は27日、利用が低迷する米子ソウル便の促進策について連絡会議を開き、林昭男副知事は県職員に「ソウルで忘年会を。韓国でクリスマス」と同便の利用を呼び掛けた。

また、アジアナ航空山陰支店は日本人客25万人達成記念の特別ツアーとして、高齢者でも安心して旅行できる添乗員同行プラン、食事・観光込みで2万5千円の格安プランなどの特別企画を紹介。新たな利用客の取り込みを図る戦略を示し、アジアナ航空榊原忍支店長は「県へ依存する体質からの脱却を目指し、一生懸命営業活動したい」と顧客開拓の協力を求めた。

(日本海新聞)11/29

<http://www.nnn.co.jp/news/131128/20131128005.html> (-> <http://www.nnn.co.jp/news/131128/20131128005.html>)

ドバイ・エアショー2013、受注数「ボーイング342機、エアバス160機」

(->) (Flyteamによると)

2013年11月17日から11月21日まで、アラブ首長国連邦(UAE)で開催されたドバイ・エアショー2013で、ボーイングとエアバスの受注結果がそれぞれ発表された。

結果はボーイングが合計342機1,015億ドルを受注・仮受注し、エアバスが合計160機440億ドルを受注・仮受注し、ボーイングの圧勝だった。

\* 詳細はFlyteamのHP参照ください。

<http://flyteam.jp/news/article/29338> (-> <http://flyteam.jp/news/article/29338>)

(flyteam)11/28

<http://flyteam.jp/news/article/29338> (-> <http://flyteam.jp/news/article/29338>)